

P18

卒園時期における永久歯萌出に関する実態調査

○楠田理奈・柏木伸一郎・岩男好恵・久保田祥子
山本雅子 (小児歯科 柏木医院)

【目的】

当院が関与している幼稚園・保育園では、卒園前に健診（以下卒園児健診と略す）を実施している。この健診の目的は、小学校入学を前に齲蝕のチェックと6歳臼歯の萌出確認である。近年の傾向として、永久歯萌出を認める者が多いように思われる。

卒園児健診ではその時の萌出状況は分かるが、萌出開始時期を確認することは出来ない。そこで今回、当院を定期的を受診している卒園時期の来院者を対象に、永久歯萌出状況を調査した。

これにより、現在の萌出状況を把握すると共に、園児・保護者・園教諭に今後指導を行う際、指導の時期や内容を検討する有効な資料となると思われる。

【対象と方法】

調査対象は当院を定期的に来院している患児のうち、平成23年11月から平成24年2月に来院した卒園予定者140名（男児:67名、女児:73名）である。調査項目は、性別・年齢・永久歯萌出状況についてである。

調査時点で永久歯の萌出を認めた者については、萌出開始時期と歯種についても、診療録を基に調査した。

【結果】

1. 永久歯萌出状況について

調査時点で永久歯萌出を認めた者（萌出群）は男児45名・女児49名の合計94名、認めなかった者（未萌出群）は男児22名・女児24名の合計46名であった。萌出群と未萌出群を比較したところ性差はなかったが、年齢でみると萌出群の平均年齢は6.3歳で、未萌出群に比べ約2カ月高かった。

萌出群の歯種別状況は、図1に示す通りである。下顎中切歯及び上下第一大臼歯においては、全体の半数以上の者に萌出が認められた。性差及び、左右差は認められなかった。

2. 萌出群に関する調査

萌出開始に性差は認められず、平均年齢は5.8歳であった。歯種別の萌出開始状況は、図2に示す通りであ

る。上顎に比べ下顎の方が、早く萌出する傾向がみられた。また、男女別では、男児は下顎中切歯、女児は下顎第一大臼歯が早く萌出する傾向がみられた。

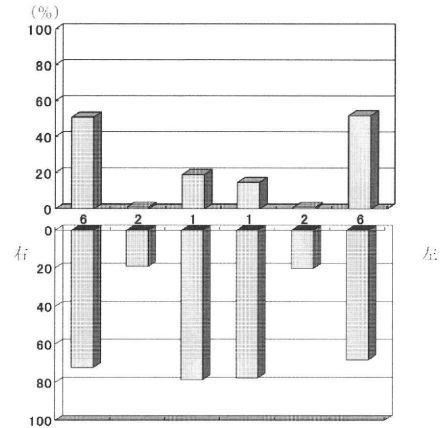


図1 歯種別の萌出状況

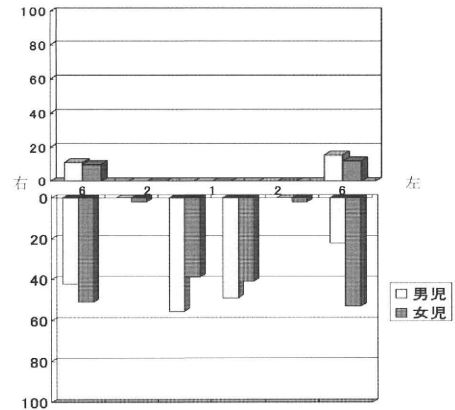


図2 歯種別の萌出開始状況

【考察】

今回の調査で、卒園前に永久歯が萌出している者が予想より多いことが分かった。この結果から、今後は永久歯に関する指導の時期を早める必要があると思われる。また、萌出状況は性別や歯種により差がみられた。これらの結果を園側と共有し、園児や保護者に対する指導内容も再検討していきたい。

【文献】

- 1) 日本小児歯科学会:「幼若第一大臼歯の実態調査」小児歯誌31: 817 - 821,1993
- 2) 長坂信夫ほか「幼若永久歯の総合的研究」小児歯誌38: 1-13,2000